



私の「フィリピン軸」

八木亜紀子 / やぎ・あきこ
特定非営利活動法人 開発教育協会 (DEAR)

大学時代の後半にフィリピンと出会ってしまったことで、私の中には「フィリピン軸」みたいなものができた。それは、日常のふとした瞬間にあらわれる。小さなことだと、びっくりするほどオートメーション化したトイレに出くわした時——ふたを開け、音楽を流し、フラッシュ！そして、ふたは閉じられる……。「うーん、それよりもバケツと手桶か、シャワーを付けてほしいな」と思う。バスに乗ってからは、両替せねばならないことに気づく。赤信号を狙って両替機まで行くのは難しいうえに面倒だ。「ジブニーなら、席に座ったまま支払いができるのに」という思いが頭をよぎる。デモ(ラリー)に参加すると、喉が渇くし、お腹がすく。「フィリピンなら、たぐさんの屋台や物売りが(勝手に)出るのになあ」と思う。それで昨冬、国会前が安保法制を巡って盛り上がりつつあったので、友人と誘い合って、路上で豚汁などを配ってみた。たぐさんの方とお話しできて、とても楽しかった。ちなみに、この友人もフィリピン滞在歴がある。

「フィリピン軸」は、私が日本の近現代史を知る助けにもなった。「教科」としての「歴史」は苦手で、教科書に書かれていることすらよくに理解していなかったけれど、日系移民のこと、日米による戦争のこと、「戦後保障」と「援助」と「開発」のこと、移住労働のこと、そして、フィリピンにルーツを持つ子どもたちのこと……。フィリピンを映し鏡にして、知ることがたくさんあった。

私が「開発教育」というものに取り組んでいるのも、その延長線上にあることだ。「途上国」をせつせと「開発」するような「援助」をするよりも、日本人びとに知ってほしいこと、出会ってほしいこと、行動してほしいことがたくさんあるのだ。

そんなことを言いながらも、ずいぶんと長いこと、フィリピンには行ってない。すこし寂しいので、日本の醤油と酢でアドボをつくる。夏は、パンシットもつくる。黒糖かりんとうはおいしいし、「ハリーナ」も読める。アジアとちやんとつながる人たちとお仕事も一緒にできる。私の中には相変わらず「フィリピン軸」もあるから、まあ、これでいいか。■

「ポコポコ」は「サンゴ礁の満潮」をイメージしています。潮が満ちていくにつれ、サンゴ礁のあちこちに「ポコ」(水たまり)が現れて、ポコポコ同士がつながり始め、いつのまにか一面海になるというイメージです。アジアの各地域で「ポコ」が生まれ、気がつけばつながっているような活動をしていきたいという思いがこめられています。

CONTENTS ■ HALINA 33 2016.08.01

02	Relay Essay ポコポコ 33 私の「フィリピン軸」◎八木亜紀子
03	【特集】 ラオス：新興コーヒー生産国の農民の生活◎箕曲在弘
08	【Topics】 映画紹介『バナナの逆襲』◎石井正子 バナナがつなげた保育園を訪ねて◎大久保ふみ
10	【Column】 Kakao Kita カカオ民衆交易奮闘記⑬ パパアチャコの夢を抱き逝った友◎津留歴子 百姓の100章③ 百姓暮らしは「いきものがかり」 農的な自学自習の学び◎斎藤博嗣&裕子 カネシゲファームのドタバタ騒ぎ③ 冗談がほんとうに!?◎寺田俊 続 Have you ever seen the cinema? ③ 『闇の列車、光の旅』◎重政栄一郎
12	わたしの友産友消じまん◎ 加藤農園の巻◎安藤文将
13	APLA食堂⑬ マスコバド糖◎吉田友則
14	【Voice from APLA partners】 【北部ルソンより】まず実践。そして少しずつ成果を。 【東ティモールより】水源保全活動の成果が少しずつ形に。
15	事務局だより

表紙のことば

2008年、石垣島を旅した時に、『ハリーナ』の表紙用に沖縄の織物を探していた。その際にみんさー工芸館に展示してあった織物が今回の表紙。本来八重山ミンサーは藍色だったが、工芸館では現代版にアレンジされた様々な色の織物があり、八重山の空や海、太陽、草木や花々を連想させる。

八重山ミンサーは五つと四つをかたどった柄模様が特徴で、「いつの世までも、未永く……」と、通い婚時代に女性が帯を織って男性に贈ったもので、藍を何度も染めて染色するので「愛を重ねる」という意味も込められている。

実は、06号にミンサー織はすでに登場しており、結婚して石垣島へ渡った友人のエピソードを書いた。彼女とは、年賀状のやりとりだけになってしまっているが、2児の母となり、子育てしながら働いているようだ。いつの世までも未永く、家族仲よく元気であることを願う。(吉澤真満子)

特集

ラオス… 新興コーヒー生産国の 農民の生活

箕曲在弘 / みのお・ありひろ
東洋大学社会学部教員

深い苦味と香りが特徴的なラオスコffee。今から12年前、現地生産者協同組合との出会いを通して、オルター・トレード・ジャバ(ATOJ)の民衆取引にラオスのコーヒーが加わった。

40年前、同じ社会主義国として独立したベトナムの報道に比べると、ラオスの現状はなかなか知ることができない。

今号は、長年ラオスの農村部で、農民の視点から地道な調査交流を続けてきた箕曲在弘氏に、国際市場に振り回されながらも生き延びてきたコーヒー農家の姿とその将来を紹介していただく。(編集部)



コーヒーの生豆。このコーヒー豆が日本をはじめ国外に輸出される。

ラオス人民民主共和国は、東南アジアでは唯一海に面していない内陸国である。国土面積で、人口は約650万人で千葉県と同じくらいである。その人口の78%ほどが農業に従事している。ラオスと聞いて多くの人が抱く悠

がるのどかな穀倉地帯というイメージは、まさにこの国土条件に由来する。

ラオスのGDP成長率はこの数年、7〜8%台が続いており、2015年ではミャンマーに次ぐ第2位となっている。この成長率は、マレーシアやインドネシアよりも3〜4%高い。このような高成長をけん引しているのが、水力発電や鉱業、林業である。ブータンがインドに売電して外貨を稼いでいるのと同じように、ラオスはおもにタイに売電し外貨を稼いでいる。また、ラオスでは金、銀、銅が採掘可能であり、こうした天然資源や木材が国外に輸出されている。この状況のなかで、ラオス政府は2020年までに後発発展途上国を脱する目標を立てている。

こうした経済成長は目を見張るものがあるものの、一人あたりのGDPは1700ドル程度であり、東南アジアではカンボジア、ミャンマーに次いで3番目に低い。とりわけ高原や山地部の農村の経済成長の遅れは、政府が克服すべき課題として認識している。こうした背景から、本稿では、筆者が2008年より調査を続けているラ

オス南部のボーラヴェン高原のコーヒー生産者の生活の実態について取り上げる。同地は2004年よりオルター・トレッド・ジャパン(ATJ)が、現地の協同組合からコーヒーを買い付けている。本稿では、同地の歴史的背景を政治、経済的な動向との関係に注目して跡づけ、今日のコーヒー生産者が抱える課題について解説する。

フランス植民地期のコーヒーの導入から内戦まで

ラオスにおけるコーヒーのほとんどは、南部のボーラヴェン高原において栽培されている。同地の東側にはベトナムとの国境を形成するアンナン山脈が南北に縦断しており、西側はタイとの国境を形成するメコン川が流れている。ラオスの国土のほとんどは熱帯モンスーン気候に属し、雨季と乾季が明確に分かれる。ボーラヴェン高原も、熱帯モンスーン気候に入るが、高原の中心地は海拔1200〜1300メートルの地点にあり、夜は厚着しなくてはならないほど涼しい。

1893年、現在、ラオスと呼ばれる土地が仏領インドシナ連邦には解散していった。このような社会主義的な農業政策は、1986年の市場開放後、徐々に影を潜め、1990年以降は、欧米の開発援助を積極的に受け入れるようになった。

コーヒーの増産と品質向上を目指す開発援助計画

今日、ラオスにおいて農業はGDPの22%ほどを占め、その中でもコーヒーは輸出される農産物のうちの第一位である。政府の統計によれば、1976年に2780トンあったコーヒーの生産量は2010年には3万1125トンにまで拡大している。この四半世紀

に編入されてしばらくすると、換金作物の栽培実験が各地で行われ、ボーラヴェン高原でも1915〜1920年の間にお茶や果実の苗木とともにコーヒーの苗木がフランス人の手によってもたらされた。

1953年にフランスが完全撤退すると、ラオスは内戦状

態となった。このあたりを受けて、1960年代後半になると、ボーラヴェン高原にも内戦の勢いが波及した。ラオスは人口一人あたりの爆弾投下量が世界一多い国である。ベトナム戦争時に使用されたホーチミンルート的大部分がラオス国内を通っており、米軍はそこをめぐってたくさん爆弾を投下した。人びとは低地に疎開するか、森の中に隠れるかという選択に迫られた。

国営農場と農業集団化政策

1975年12月、全国人民代表者会議において王政廃止が宣言さ

で、実に10倍以上に増加したことになる。一方、2014年の輸出量は2万3917トンであり、フランスやベルギー、シンガポールなど様々な国に輸出されている。日本もATJのものとは別に2010年以降、約5千トンのアラビカ種を大手総合商社経由で輸入している。もともと、この量は、約37万トン輸出するインドネシアや152万トン輸出するベトナムには遠く及ばない。だが、日本に限れば、ラオスは国別の輸入国では第9位に位置づけられるなど、ラオスコーヒーの国際市場における存在感は徐々に増している。

このようなコーヒーの増産が顕

れ、ラオス人民民主共和国が誕生した。このとき、名実ともに内戦が終了したのである。この結果、全国で国営農場や農業集団化政策が実施されることとなった。

ボーラヴェン高原もその例外ではなかった。同高原の中心にあるチャムパーサク県パークソーン郡では、政府がベトナム人やラオ人が所有していた20ヘクタール程度のプランテーションをいくつも接収し、4つの国営農場を誕生させた。ここには内戦で負けた王国軍側の兵士が全国各地から連れてこられ、サマナーと呼ばれる社会主義思想の教育が施された後、

著になったのは、社会主義時代の農業政策が基盤にあったのは間違いないが、それ以上に、1990年代に入ってから政府や民間企業の様々な動きによる。例えば、政府は1990年代に入り実質的に焼畑陸稲耕作を禁止し、その跡地で換金作物栽培を奨励するようになった。このなかでボーラヴェン高原では、コーヒーの増産と品質向上を目指し、1991年以降15年以上にわたり、ラオス農林省と世界銀行やフランス開発庁(AF D)は数度にわたる援助計画を実施してきた。この過程で、高収量品種のカティモールが導入され、40村に水洗加工設備が設置されてきた。



水洗加工時の果肉除去の様子。手動でローラーを回す場合と、モーターで回す場合がある。

この援助計画の最後の一手として、ラオス農林省とAF Dは2007年に官製の協同組合を設立した。この協同組合はフェアトレードと有機認証を獲得して、ラオスの人びとが中心となってコーヒーを安定的に輸出する手はずを整えてきた。今日では1855世帯が加盟する協同組合となり、援助資金なしに商業ベースで毎年1000トン程度のコーヒーを主にフランスなど欧州諸国に輸出している。



雨季の仕事は草刈り。たいへんな重労働である。



する者もいる。だが、これらは地元の市場での取引となるため価格はたいへん低い。筆者の2008年の調査によれば、ある村では1カ月〜4カ月程度、コーヒーから得た収入では主食をかうお金が得られない世帯が48世帯中22世帯あった。こうした世帯は、近くのプランテーションで日銭を稼ぐか、コーヒーの仲買人に借金をするなどして生活している。

この仲買人の借金は、一般的には銀行から借りるより利子が高い。銀行では月換算で1・2%程度の利子がつくが、仲買人の場合、8〜10%となる。農家は土地を担保

備と脱穀設備を導入し、2012年にはインスタントコーヒーの工場も稼働し始めた。日本の大手総合商社も、ダオファン社を介してコーヒーを購入している。

コーヒー農家の未来

このようにラオスの小規模農家を取り巻く生活環境は常に変化にさらされている。とりわけ90年代に入り、陸稲の栽培ができなくなってからは、主食の米が確保できず重要な関心事となった。その意味では、メキシコのように主食を別に栽培しているコーヒー農家は異なる、食料確保のリスクは高いといえる。

だが、ラオスのコーヒー農家は、飢えてしまうほど貧しいわけではない。現金収入が少ない場合は、できるだけ支出を抑えて、主食の米だけは確保するように努めている。また、一家が食べていける

に銀行から融資を受けることは可能だが、銀行が村の近くにないか、ペーパーワークが複雑で苦手であるといった理由から銀行からの融資を好まない。この点、取引している仲買人であれば、簡単に貸してくれる。

食料確保のための生存術

このようにラオスの小規模農家を取り巻く生活環境は常に変化にさらされている。とりわけ90年代に入り、陸稲の栽培ができなくなってからは、主食の米が確保できず重要な関心事となった。その意味では、メキシコのように主食を別に栽培しているコーヒー農家は異なる、食料確保のリスクは高いといえる。

だが、ラオスのコーヒー農家は、飢えてしまうほど貧しいわけではない。現金収入が少ない場合は、できるだけ支出を抑えて、主食の米だけは確保するように努めている。また、一家が食べていける

このため、一般的には牛や豚などの大型家畜を飼育し、額の大きい現金が必要な時に売ることになる。だが、大型家畜は盗難や病気などのリスクに対処できなかったり、世帯内に世話ができる人員がいなかったりすることにより、す

国際市場価格の変動で高利貸しの犠牲になる農民

ラオスのコーヒー農家が飢えるほどではないからといって、安定した生活が確保できているわけではない。コーヒーの国際市場価格の変化は、生活に大きな影響を与える。例えば、2012年までは、この10年ほどほぼ右肩上がりだったコーヒー価格が上昇していたが、2012年には大きく下がった。だが、一方で地域の物価や、政府が発表する最低賃金も段階的に上昇している。この関係でコーヒーの収穫に必要な労働者に支払う報酬も上昇傾向にある。国際市場価格が下がったとしても、この労賃を下げることができず、小規模農家の取り分は減少する。

さらに、この状況に追い打ちをかけるのが、雨季の現金収入源の少なさである。コーヒーの収穫は、アラビカ種とロブスタ種の両方を育てていけば年2回だが、どちらも乾季に集中して、5月から10月までの雨季の6カ月間にまとまった収入が得られない。もっとも農家の中にはイモ類やハーブ類、野菜類を育てており、それを売却

ダオファン社のインスタントコーヒー工場。ラオス資本によりインスタントコーヒーを製造し、国内外で販売している。



このような政府主導の計画とは別に、民間資本レベルで輸出会社が生じた。とりわけダオファン社はラオスを代表する企業として全国に知られており、どの仲買人もこのダオファン社にコーヒーを売却している。筆者の推計では、今日のラオスから輸出されるコーヒー全体の8割〜9割程度がダオファン社からのものである。もともと貿易商から始めた同社は1995年からコーヒーの買取を始めようになり、1999年には250ヘクタールの自社プランテーションを展開し始め、2010年よりベトナム製の大型水洗加工設

備と脱穀設備を導入し、2012年にはインスタントコーヒーの工場も稼働し始めた。日本の大手総合商社も、ダオファン社を介してコーヒーを購入している。

食料確保のための生存術

このようにラオスの小規模農家を取り巻く生活環境は常に変化にさらされている。とりわけ90年代に入り、陸稲の栽培ができなくなってからは、主食の米が確保できず重要な関心事となった。その意味では、メキシコのように主食を別に栽培しているコーヒー農家は異なる、食料確保のリスクは高いといえる。

だが、ラオスのコーヒー農家は、飢えてしまうほど貧しいわけではない。現金収入が少ない場合は、できるだけ支出を抑えて、主食の米だけは確保するように努めている。また、一家が食べていける

に銀行から融資を受けることは可能だが、銀行が村の近くにないか、ペーパーワークが複雑で苦手であるといった理由から銀行からの融資を好まない。この点、取引している仲買人であれば、簡単に貸してくれる。

食料確保のための生存術

このようにラオスの小規模農家を取り巻く生活環境は常に変化にさらされている。とりわけ90年代に入り、陸稲の栽培ができなくなってからは、主食の米が確保できず重要な関心事となった。その意味では、メキシコのように主食を別に栽培しているコーヒー農家は異なる、食料確保のリスクは高いといえる。

だが、ラオスのコーヒー農家は、飢えてしまうほど貧しいわけではない。現金収入が少ない場合は、できるだけ支出を抑えて、主食の米だけは確保するように努めている。また、一家が食べていける

このため、一般的には牛や豚などの大型家畜を飼育し、額の大きい現金が必要な時に売ることになる。だが、大型家畜は盗難や病気などのリスクに対処できなかったり、世帯内に世話ができる人員がいなかったりすることにより、す

国際市場価格の変動で高利貸しの犠牲になる農民

ラオスのコーヒー農家が飢えるほどではないからといって、安定した生活が確保できているわけではない。コーヒーの国際市場価格の変化は、生活に大きな影響を与える。例えば、2012年までは、この10年ほどほぼ右肩上がりだったコーヒー価格が上昇していたが、2012年には大きく下がった。だが、一方で地域の物価や、政府が発表する最低賃金も段階的に上昇している。この関係でコーヒーの収穫に必要な労働者に支払う報酬も上昇傾向にある。国際市場価格が下がったとしても、この労賃を下げることができず、小規模農家の取り分は減少する。

さらに、この状況に追い打ちをかけるのが、雨季の現金収入源の少なさである。コーヒーの収穫は、アラビカ種とロブスタ種の両方を育てていけば年2回だが、どちらも乾季に集中して、5月から10月までの雨季の6カ月間にまとまった収入が得られない。もっとも農家の中にはイモ類やハーブ類、野菜類を育てており、それを売却

映画紹介『バナナの逆襲』

石井正子 / いしせい・まこ
立教大学異文化コミュニケーション学部



©WG FILM

映画

『バナナの逆襲』は、スウェーデン人のフレドリック・ゲルテン監督の『Big Boys Gone Bananas!』（監督：弁護士ドミンゲス、現る）（第1話）と『Bananas!』（監督：弁護士ドミンゲス、現る）（第2話）の二作品で構成されている。第2話が2009年、第1話が2011年に製作されているので、時系列では、ドミンゲス弁護士がニカラグアのドール・フード・カンパニー（以下、ドール）のバナナ農園で働く労働者が農業被害にあつたと同社を訴えた後（第2話）、その記録映画を公開しようとしたところ、今度はゲルテン監督がドールに訴えられる（第1話）、という流れである。日本であえて順番を逆にして上映するのは、観客の探究心をあおるためか。

使用禁止農業とバナナ農園労働者

ともあれ、物語の発端は第2話。オープニングに、高級車に乗った人物の登場。この人物は、強烈な個性が光るドミンゲス弁護士。危険性を知りながらドールが使い続けた農業により健康

を害した労働者の存在を知り、立ち上がる。

ニカラグアのバナナ農園の様子は、フィリピンにある多国籍企業の日本輸出向けバナナ農園とそっくりである。広大な土地にバナナだけが整然と栽培されている風景。防護服などを身につけずに農業を噴霧する低賃金労働者。

労働者は農業による健康被害を訴える。しかし、公害健康被害の問題とよく似ていて、訴訟を勝ち取るほどの因果関係を証明することは難しい。そのなかで、これなら証明できるとドミンゲス弁護士らが絞り込んだのがDBCPによる無精子症の被害であった。結局、ロサンゼルスの方廷で、原告12人のうち6人の被害について会社側の責任が認められたが、ドールは上訴し、2016年2月時点では決着はついていない。驚いたことに、DBCPは、1979年に製造中止され、翌年にフィリピンで使用が禁止されたのにもかかわらず、1986年までフィリピンのバナナ農園でも使われていたという。

私は取材でミンダナオ島のバナナ労働者にインタビューを実施したことがあったが、無精子症の恐ろしい話は語り継がれていた。

裁判の様子を記録映画にし、ロサンゼルス映画祭コンペティションで上映しようとしたところ、ドールが主催者に上映中止を要求し、監督を名誉毀損で訴えた。この過程を描いたのが第1話である。監督はドールの脅しに屈する映画祭主催者とドールの両方と闘うはめに、不屈の精神をもつことがうかがえる監督ではあるが、さすがに憔悴していく。そんな監督に一筋の光が差し込む。母国スウェーデンのプロガーが「上映できないのはおかしい」と発信。世論を動かし、国會議員が議事堂で上映した。その後、第1話は世界各国の映画祭で受賞する。

バナナを食べる責任として

映画に描かれる多国籍企業のバナナ農園における農業使用と労働者の健康被害の問題は、日本でも注目されたことがある。1982年に鶴見良行氏が『バナナと日本人』（岩波書店）を出版。フィリピンのバナナ農園における多国籍企業と権力者の癒着、低賃金で雇用される生産者、生産者の農業健康被害の実態を明らかにした。それから30年以

バナナがつなげた保育園を訪ねて

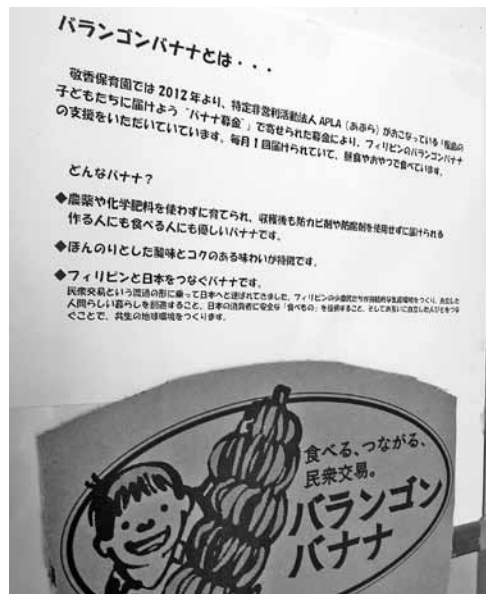
大久保ふみ / おおくほ・ふみ
APLA事務局バナナ募金担当

全

国からの募金をバラゴンバナナに変えて、安心なおやつとして食べてもらうために福島県内の児童施設に届ける「バナナ募金」の取り組みは、震災後から始まり今年で5年目になった。多い時には24ヵ所の施設に届けていたが、園児不足や経済的理由から閉園した園もあり、現在は17ヵ所になっている。5月末、福島市内にある保育園を訪問した。これまで何度も福島には行っているが、豊かな自然と共に人びとが暮らし、それが保育にも活かされていた土地なのだということが保育園の先生からお話を聞くなかで改めて感じさせられた。

放射線量にふりまわされる遊び場

山あいに立地している飯野あおぞら保育所は、周りが自然に囲まれている子どもたちが好きそうな遊び場がいっぱい。園庭は除染され、遊具を全て取り替えたため、線量も下がり、時間制限なしで遊べるが、園外ではまだ遊びに行けない場所もある。向かいにある



敬香保育園で張り出されていたバラゴンバナナの説明。

「桑仙人」という小高い山は、かつては子どもたちの遊び場だったが線量が高く現在も遊びに行くことができない場所のひとつ。所長の斎藤先生に震災当時のお話を伺うと、久しぶりにマラソンをしたらうまく走れなかったり、歩くときもしつかり歩けない子どももいた。震災後から子どもたちの体づくりに努めているとのことだった。

福島敬香保育園では、震災以降、体育館を借りて実施していた運動会を5年ぶりに園庭で開催できた。「どんぐり

拾いは昨年からできるようになったけれど、近くの阿武隈川沿いにあるサイクリングロードは線量が高く、以前のような土手滑りや散歩が自由にできない状態」と園長の飯澤先生が悔しそうに話していた。同席した先生からは、「屋内で育てたトマトでも収穫して食べることができず、眺めるしかなかった時が一番辛かった」と当時の振り返る話を聞いた。この園では、玄関に入るとすぐの所に給食メニューを表示しているボードがあり、それにAPLAからのバナナ配送用ダンボールに付いている絵を切り取って貼り出してくれていた。

バナナでつながるネグロスと福島

それぞれの園で多くの苦労や試行錯誤をしてきたこの5年、給食も放射線量を計り、使用する食材も県内産の食材が使われるようになった。徐々に状況は良くなりつつあるように見えるが、自然に恵まれた環境が災いし、園外での散歩や遊びが自由にできない状況で「かつての

上が過ぎた。しかし、状況はあまり変わっていない。

例えば、フィリピンでは、現地法人スミフル・フィリピンによる空中農業散布に反対する運動が起こっている。住民は健康被害を訴えているが、因果関係を証明することは難しい。一方、農業は農園以外にも散布され、風に乗って飲み水に混入し、飛行機の騒音が学校の子どもの学習の妨げになっている。私自身、こうした状況を求められているが、現地からの情報による大きな改善は見られないという。ゲルテン監督の行動力に勇気もらったいま、消費者の責任としても、引き続き改善を要求していきたい。しかし、日本輸出向けバナナのフィリピンにおける空中農業散布の問題について、どうするか。スウェーデンの状況がうらやましいばかりである。

〔注1〕日本の株式会社ドールとは資本関係はない。
〔注2〕毎日新聞(2016)「農民VS米大企業、映画にしたら訴えられた」『バナナの逆襲』フレドリック・ゲルテン監督に聞く(2016年2月29日) <http://mainichi.jp/articles/20160229/ddc/012200/05000c>
〔注3〕オルター・トレード・ジャパン(2016)「アメリカで使用禁止の農業をニカラグアで使い続ける企業の倫理的責任を問いたい」『バナナの逆襲』フレドリック・ゲルテン監督インタビュー <http://altertrade.jp/archives/12135> (2016年9月6日参照)

保育を取り戻したい」と、先生方は口々に言っていた。自然の恵みを活かした保育を大事に考えて、長年実施してきたからだ。自分が子どもだったとき、外で自然と触れ合ってた遊んだ経験が、たくさん学びにつながっていたことを思い出した。

今回訪問した園は今まで訪れたことがなかったため、それまでバナナを届けることだけだったが、実際に会って「今も届けてもらっていることをとても有り難いと思っている」といった声やその反面「いつまで甘えてよいのかと思う所もある」という複雑な思いも知ることができた。

30年近く前に「子どもに無農薬で安心なバナナを食べさせたい」という声から始まったバラゴンバナナの民衆交易。バナナを大事に育てているフィリピンの生産者と福島の子どもたちがつながる。APLAだからこそできることでこれからも福島とつながり続けていきたい。

引き続きバナナ募金への協力よろしくお願ひいたします。

■郵便振替 00190031447725
特定非営利活動法人APLA
※通信欄に「バナナ募金」と明記してください。
■銀行口座みずほ銀行高田馬場支店(普通)
2650327 特定非営利活動法人APLA
※銀行振込の場合「バナナ募金」への募金であることを事務局までご連絡ください。

03

カネシゲファームの

ドタバタ騒ぎ



寺田 俊 / たらた・しゅん
APLA事務局



白黒写真でカラーが見えず残念ですが、新しくペンキで塗られた家。実際は派手!!

カネシゲファームがあるラ・カルロータ市は市民の6割以上が砂糖産業に従事しています。町を移動していても景色は変わらず、目に入る緑はほとんどが砂糖キビ。そんな砂糖キビ畑に囲まれてボツンと小さな森があります。それがカネシゲファームです。約5・5haの農場には様々な野菜や果物が植えられ、たくさん生き物たちがいます。7年前、荒地だった土地にだんだんと自然が戻ってきました。また、敷地内にはいくつかの家があり、それぞれスタッフやその家族が暮らしています。今回はその中のひとつ、リビングのよう役割をしている家の話です。

冗談がほんとうに!?

カネシゲファームがあるラ・カルロータ市は市民の6割以上が砂糖産業に従事しています。町を移動していても景色は変わらず、目に入る緑はほとんどが砂糖キビ。そんな砂糖キビ畑に囲まれてボツンと小さな森があります。それがカネシゲファームです。約5・5haの農場には様々な野菜や果物が植えられ、たくさん生き物たちがいます。7年前、荒地だった土地にだんだんと自然が戻ってきました。また、敷地内にはいくつかの家があり、それぞれスタッフやその家族が暮らしています。今回はその中のひとつ、リビングのよう役割をしている家の話です。

「冗談で言ったので、さすがにみんなが同じ色を言うので、本当にピンクに決めました。でもさすがに全部をピンクは……という話になり、窓部分をピンク、その他は緑という何となく派手な家になりました。初めは冗談で言ったことが本当になり、みんな笑っていましたが、それがまた愛着を深めることに。」

「今日もスタッフの誰かが朝6時に眠い目をこすって薪に火をおこし、家からはもくもくと煙が出ています。それを見てみんなが集まり、コーヒを飲みながら1日の始まりを共に過ごしていると思います。」

01

kakao kita

カカオ民衆交易奮闘記

15

津留 歴子 / つる・あきこ
オルター・トレード・インドネシア社現地駐在員



カカオの買い付けをするティナさん(右)。

パプアチヨコの夢を抱き逝った友

去る5月24日、カカオ・キタの大切な仲間が天国へ旅立ちました。彼女の名はマルティナ・ウォノテライさん、通称ティナ、享年42歳でした。カカオ事業には立ち上がりの頃から関わり、2010年ネグロスで開催されたアジア民衆基金(APEF)総会にもカカオ・キタ代表のデッキーさんと一緒に参加しました。4月末に胸の痛みを訴えて入院し、最後は手足がパンパンに浮腫み、呼吸困難で亡くなりました。ティナが亡くなる2日前に私は彼女を見舞いました。呼吸も苦しそうなティナでしたが、パプアチヨコをインドネシア国内でも売る構想で話が盛り上がり、「ティナはパプアチヨコの国内販売担当だからよろしく頼むよ」とデッキーさんから言われると、満面の笑顔で

「ティナのお通夜には多くの友人が集まり、夜通し皆でパプアの歌を唄い続けました。そして日の出前、ティナの亡骸を故郷ナヒレに搬送するため霊柩車は空港に向けて出発、友人たちがオートバイや軽トラックでその後に続きました。寝静まる町をたたき起こすかのようになり、霊柩車はけたたましくサイレンを鳴らし、ティナがいつも買物をしてきたアベブラの町、ティナが通ったチェンテラワシ大学を走り抜け、彼女は20年近く住んだこの町と私たちに別れを告げたのです。」

ティナと一緒に何度も通ったカカオ産地、ふと青空を見上げるとティナの笑い声が聞こえてきます。「私たち頑張っているから、ティナもそこからさっさと応援してね。」

04

Have you ever seen the Cinema? あの映画を見たかい? 03

『闇の列車、光の旅』 (原題) Sin nombre (2009年、メキシコ 米国)
【監督】 キャリー・ジョージ・フクナガ 【出演】 エドガール・フローレス、パウリナ・ガイタン

重政 栄一郎 / しげまさ・えいいちろう
エディトリアル・デザイナー



『闇の列車、光の旅』
発売元：日活 販売元：ハピネット
価格：DVD/1,200円(税別)
©2008 Focus Features LLC. All Rights Reserved.

登場人物が移動(逐しながら物語を紡ぐ映画をロードムービーという。移動手段は様々だが、その目的(ストーリー)の多くは、何か/誰かから逃げる、何か/誰かを追う、または探すものである。これらは物語を最もスリリングにする要素だ。移動する過程(各地)で、様々な出会いと別れを経験し、事件・事故に遭い、発見や喪失があり、成長がある。この映画も典型的なロードムービーだ。

主人公は二人。一人は中米ホンジュラスのスラムに暮らす少女サイラ。もう一人はメキシコ各地に果食うギヤング組織の一員の少年カスベル。サイラは故国での貧しく希望のない生活に見切りをつけた父、叔父に連れられ米国を目指す旅に出る。主な移動手段は鉄道。もちろん楽しい旅ではない。彼らが乗るのは貨物列車の屋根の上。照りつける陽射し、激しい雨風を遮るものはない。転落の危険も隣り合わせた。官憲に捕まれば即強制送還。凶悪な犯罪集団に

「北」に向かう道のその手前には……

襲われることもある。命懸けの旅だ。もう一人の主役カスベルは強盗目的で仲間とともにこの列車に乗り込む。その際サイラを強姦しようとしたギヤングのリーダーを殺害してしまい、裏切り者として組織に追われることになる。恋仲になったサイラとカスベルはギヤング組織から逃げつつ、米国に向かってひた走る……。サイラが乗る列車の屋根には、他にも数多く中米の貧しい人びとがひしめき、肩を寄せ合っている。彼女らの目的ももちろん米国への密入国。貧しく危険に満ちた生まれ故郷から逃れ、豊かで清潔で安全な生活を追い求める旅だ。彼らは行路での様々な危険も、目的地で望む生活が保証されているわけではないことも、自分たちが「招かれざる客」であることも重々承知している。それでも彼らは命を賭して「北」を目指す。粗末な小舟にすし詰めにあって海に乗り出す人びと、トラックや貨物船が運ぶ狭く密閉されたコンテナに紛れ込む人びと、酷暑/灼熱の大地を長駆歩き進む人びと……。

「北」へ向かう道の手前には、彼らにはどうすることもできない圧倒的な絶望と虚無に取り囲まれた現実が存在する。「北」が希望である限り「闇の列車」は今日も走り続ける。

02

百姓の100章

A Farmer have One Hundred Stories.



斎藤 博嗣&裕子 / さいとう・ひろつぐ&ゆうこ
一反百姓「じねん道」



家族で楽しむ子供農業雑誌『のらのら』(農文協) No.19(2016夏号)に載った「じねん道」たち。

第3章 百姓暮らしは「いきものがり」 農的な自学自習の学び

子どもたちを、子ども百姓「じねん道」と呼んでいる。自分で立ち、歩き始めた頃から野良仕事の手伝いをし、彩葉は7年、風采は4年、百姓見習いをしていく。自然となかよく遊びながらお手伝いする姿から、日常にある「農という学び」を、ソリーの「子どもは自然からの宿題をもらっており、大人はそれを知らなければならぬ」とを連想する。

子どもは「貧困・学力低下・いじめ・不登校・虐待など」「子ども」をめぐるニュースが絶えない。国連の「子どもの権利委員会」は、「日本の子どもは極度に競争的な教育制度によるストレスのため発達上の障害にさらされている」と日本政府に是正を求め98年、04年、10年の3回勧告した。

「歌手「いきものがり」の唄に「なくもんか」がある。「愛想笑いだけ上手くなってさ、大人にはなれたけど。僕が描いていたのは、そんなもんじゃありません。もっと強くて優しいはずの温もり……」もっと強くて優しいはずの存在、そう「自然のように大きな人」そんな大人でありたい。百姓暮らしこそ、自然を父母とする「いきものがり」なのだ。シュタイナーは、「子どもの教育は、大人の自己教育から……」と言った。大人は子どものお手本となりうるか? 「名ばかり大人」ではなく、自然の働きに沿った普遍的な「自学自習の学び」をまず大人からはじめたい。大人が子どもに教わって、はだしのまま自然に飛び出して「じねん道」になろう!

APLA 食堂

Kitchen APLA

今日の食材 マスコバド糖

吉田友則 / よしだ・ともものり
出張料理「きまぐれや」シェフ

語り尽くした感もあります。

この原稿が掲載される頃には、夏真っ只中。暑中見舞い申し上げます

今回は、マスコバド糖。もう長いお付き合いですねえ。自らマスコバド糖広報、親善大使と名乗るほど。いろんな媒体でも語ってきましたが、

修行時期を経て一本立ち、そう「シェフ」と呼ばれるようになった頃からだから17年になりますか。現APLA事務局長の吉澤さんが僕の料理教室の生徒さんで当時彼女はマスコバド糖の担当だったのが出会いのきっかけでした。

以来僕が作る料理やドルチェにはいつもこのマスコバド糖(通称マスコ)が存在していますが、これが付き合ってみると奥が深い。これを砂糖の一種として語るつもりはなくて、あわせる素材や季節でいろんな顔をする天然旨味調味料ですね。

例えば夏。夏の盛りに涼を取るのに日本人も地域ごとに色々な工夫がありますよねえ。かき氷やらなんやらと。それと同時に夏バテ対策になんてのも沢山あります。皆さんはどんな工夫をしてるのでしょうか? 関東では古来冷やし甘酒。そして京都の冷やしあめ、なんてのもいいですよ。これは効きますね、なんかスーッと暑さが引いて疲れもとれたりして。個人的には大好きで、1日厨房にいたりすると、水分摂っているつもりでも自分の想像以上に消費して。塩分と糖分の摂取バランスが体調に左右するのがよくわかる季節です。

もちろんマスコのもつ旨味やコクも冷やし甘酒やひやしあめに匹敵するものがあります。きまぐれやでは、マスコと生姜を煮てシロップをつくり、それを炭酸と檸檬果汁で割って自家製ジンジャーエールを作ります。またそのシロップを利用してドレッシングにしたりゲランド塩とぬるま湯で割り、夏の厨房ドリンクにしたりも。

そんなある日のこと。株式会社新潟麦酒さんからオリジナルの炭酸飲料を作らないかと、お声がけ頂き、これは面白い!とマスコを抱えて新潟の上越に行きました。当初マスコ



13

と生姜のシロップを麦芽とホップでなんて思っていたんですが、向こうで社長自らブレンドをしていただきながらの試作。マスコを麦芽とホップと合わせるのですが、麦芽を増やしたり、ホップを減らしたりしていく中で、甘さの表情がどんどん変わるので。生姜はあとで足してということで、ひたすら、マスコ、麦芽、ホップのブレンドを。

皆さん麦芽だけとか、ホップだけって味見したことありますか? 物凄い酸味だったり苦さだったりするんですが、マスコはその二者を受け止めて融和していくんですね。味見しながらワクワクしてしまいました。結果、もう生姜いらねえよ、というバランスに辿り付きマスコバド糖の炭酸飲料「甘くて苦いクロタンサン」の誕生になりました。本当はそんな苦くはないんですけど、麦芽とかホップを使うので麦酒の苦さをネーミングの時にイメージでつけました。この暑い時期にあえてぬるいクロタンサンを飲むのも疲れがとれます。ウイスキーとわってクロハイボールなんてのも人気です。

赤ワイン、フンドボー、味噌、醤油、ついには麦芽とホップと、幅の広いものを融和してくれるマスコバド糖にまだまだ夢をみたいと思う今日このごろです。■



キャンプ、イベント、夕涼みなど夏休みの様々なシーンで飲んでいただけます。夏の疲れを癒してくれます!

筆者プロフィール

出張料理「きまぐれや」シェフ 吉田友則

製菓製パンの専門学校で勉強した後、料理の世界に入る。長野県八ヶ岳の井出忠利氏に師事し、ジャンルに囚われない季節感を大事にした料理を目指すべく海外に渡る。帰国後、イタリアン、フレンチ、洋食屋などで経験を積み、口福感の残る料理を提供すべく独自の活動を展開している。日本一移動するレストラン「きまぐれや」は16年目を迎え、開けたドアは2400軒。



自慢する人

安藤丈将 / あんどう・たけまさ
練馬区住民

西

武池袋線の大泉学園駅からバスで5分。埼玉県境に近い住宅地の中に農地が広がり、加藤農園はここにありま

す。農園の後継者の加藤幸蔵さんは、26歳。歩いて10分ほど、ご近所さんの社会福祉法人「つくりっこの家」に野菜を出しています。

加藤農園とつくりっこの関係は、幸蔵さんの祖父母の代に始まります。野菜は、有機たい肥を使って作られていて、味の濃さが自慢です。野菜やクッキー、さき織りの販売店である「みのりや」の店頭や、他のつくりっこの店舗で販売されます。

つくりっこのメンバーは、精神障がいのあるメンバーが地域で働き生活できるように、障がいの有無にかかわらず、支えあっています。毎日、幸蔵さんの野菜を使った約50人分のお昼ごはんを作り、一緒に食べるのが日課です。スタッフは、幸蔵さんの野菜を通して地域と関わることができるようになったと言います。人が生きるのに欠かせない野菜を売ることが、地域の人がとつながることができ

ます。幸蔵さんは、つくりっこのことを「パートナー」であると言います。

わたしの友産友消じまん 09

加藤農園の巻



みのりやの前で。右から2番目が加藤幸蔵さん。

幸蔵ファーム

東京都練馬区大泉学園町3丁目
(e-mail) k.kato.farm@gmail.com

社会福祉法人 つくりっこの家

東京都練馬区大泉学園町1-23-5
(電話) 03-5387-2477
http://www2.ttcn.ne.jp/~tukurikko/index.html

みのりや

東京都練馬区大泉学園町1-25

「野菜を買ってくれるお客さん」よりも深い関係。つくりっこのでは、就農したばかりで試行錯誤中の幸蔵さんと時折、一緒にご飯を食べながら、いろいろな話をしています。幸蔵さんは、つくりっこのメンバーに農園

に来てもらい、農園と一緒に野菜を食べたり、働く場を作ったりしたいという未来像を語ってくれました。これからも、友産友消の関係は続きます。■



【左】幸蔵さんの野菜を料理当番の人たちで調理。
【右】本日のメニューはカレー。

【事務局だより】

編集後記

ベトナム戦争時、米軍の砲撃を人口当たり一番受けたのはラオスの人びとだったことを、今回の特集記事で初めて知った。

前号で紹介したタイのエビ労働者しかり、日本のメディアは大事件が起こらない限り、こうした国々の状況は報道しない。

でも、APLAには、アジアや世界の地域に身を置いて活動している方々が、たくさんリンクして下さっている。ハリーナは、これからも、リンケージ・イン・アジアにこだわった人びとの状況を伝えていきたいと思う。(大橋)

育休から復帰し、今号より編集部に戻ってまいりました。今年から近所の畑を借りて野菜作りを始めました。やってみると初めて知ることばかり。これまで散々ネグロスの人たちに「持続可能な農業！」なんて言ってきましたが……。少しでも作物を作る人の気持ちに立てるようにと思っています。子どもの教育も「自学自習の学びをまず大人から!」。じねん道さんの言葉が心に響きました。(吉澤)

パプアの友人ティナさんが旅立ってしまった。Facebookという便利なツールのおかげで、パプアと日本、遠く離れていてもお互いの近況を知ることができていた。わたしが辺野古の海のことを投稿した時に「いつか行きたい!お金を貯めないでダメね…hahahahaha」とコメントしてくれたのは、ほんの4カ月前のこと。一緒に海を泳ぐことはもう叶わなくなってしまったけれど、パプアに会いに行くから待ってね。(野川)

ハリーナ HALINA

2016年8月号 vol.02-no.33
2016年8月1日発行

【編集長】
大橋成子

【編集者】
野川未央
吉澤真満子

【表紙写真】
吉澤真満子

【デザイン・制作】
十年舎

【編集・発行】
特定非営利活動法人APLA
(APLA/あぷら: Alternative People's Linkage in Asia)
〒169-0072
東京都新宿区大久保2-4-15
サンライズ新宿3F
tel. 03-5273-8160
fax. 03-5273-8667
e-mail info@apla.jp
URL http://www.apla.jp

【印刷】
株式会社セイズ

事務局の動き(2016年5月~2016年7月)	
5月 2日~11日	フィリピン・ネグロスに寺田が出張しました。
5月 14日~15日	新潟県長岡市で「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップを開催しました。
5月 14日	「フェアフェス2016」(池袋)に出展しました。
5月 15日	URBAN RESERCH DOORS 虎ノ門店(東京都港区)で「あなたに合ったコーヒーをみつけよう」ワークショップを開催しました。
5月 21日	東ティモール・フェスタ2016に実行委員会メンバーとして参加しました。
5月 22日	「カンタ!フェスタ2016」に出店しました。
5月 22日	第5回ロータス寺市に出店しました。
5月 29日	東京朝市・アースティマーケットに出店しました。
5月 30日~31日	福島のパナナ募金届け先保育園4カ所を秋山と大久保が訪問しました。
5月 30日~6月 5日	JAMMINのチャリティTシャツのキャンペーンがありました。
6月 4日	第9回総会を開催しました。
6月 4日	理事会を開催しました。
6月 7日~16日	フィリピンに秋山と寺田が出張しました(寺田は26日まで)。
6月 12日~19日	フィリピン・ネグロスに大久保が出張しました。
6月 25日	東京朝市・アースティマーケットに"P to P Cafe"として出店しました。
7月 13日	友産友消のスヌメ①を開催しました。
7月 21日~28日	グリーンコープ「青少年ネグロス体験ツアー」が開催され、大橋と寺田が同行しました。

事務局からお知らせ

熊本地震の災害救援募金へのご協力、ありがとうございました。

2016年4月に発生した熊本地震への災害救援募金のご支援ありがとうございました。募金は7月1日にグリーンコープへ振り込みました。募金額総計:72,500円

「福島の子どもたちに届けよう パナナ募金」へご協力を!

17施設、約1300人の子どもたちへパナナの発送を継続してきていますが、募金額が減少してきております。皆様のご支援・ご協力、よろしく願いいたします。

以下の呼びかけに協力しました。

- 国際環境NGO FoE Japan主催「Climate Justice Now—気候変動とたたかうアジアの人々の声」



From Northern Luzon, Philippines [北部ルソンより]

まず実践。そして少しずつ成果を。

フィリピン・北部ルソン、ヌエバビスカヤ州マラピン渓谷。循環型農業や持続可能な地域づくりに取り組んでいる柑橘生産者のギルバートさんを訪問しました。2015年4月に柑橘生産者たちは、ネグロス島のカネシゲファーム・ルーラルキャンパスを訪問し、交流しました。そこでの循環型農業の実践を見て、自分たちなり



柑橘生産者のギルバートさんのお連れ合いと息子のボンさん。

の工夫をさらに試し、少しずつ成果が出てきています。例えば、豚を飼い、その糞尿を液肥として使用。それに加え、B M活性水を主に土壌灌水と葉面散布に使用し、数年放っておいた蜜柑の木の手入れをしたところ、通常であれば2~3年かけて実をならせていくのですが、1年で復活したそうです。また、花芽(蕾)が付いたところに葉面散布を始めたら、散布してないところと比べると実付きが良く、通常より早く出荷ができるようになりました。早期出荷は高い価格で売れるので、とても喜んでいました。一方で地域内では、化成肥料や殺虫剤に頼る人がいるとのこと。有機農業に懐疑的な生産者が多く、なかなかこれまでの考え方を変えていくことは簡単な

From East Timor [東ティモールより]

水源保全活動の成果が少しずつ形に。

ここではなきそうです。ギルバートさんの息子のボンさんは、「周辺で農業を使って栽培している柑橘と変わらず立派な実がなっている。まずは自分たちが例を見せることができたら」と前を向いています。ここ最近、町からの道路も

地域の水源を守り、子どもや孫世代に引き継いでいけるように、乾季にも生活用水や農業用水に困らなくなるように、とエラメラ県のコー

それぞれの地域の水源は、緑が青々と茂り、きれいな水が湧き出ていました。東ティモールの雨季には、毎日豪雨が降ります。そのため、川を流れる水は赤土を削って真っ茶色の泥水になってしまうのですが、水源から湧いている水は透きとおっています。



水源の周りには、緑が青々と茂っています。

新しい生産者も増え始めているマラピン渓谷。彼らのお手本が、ますます地域の農業に大切な影響を与えてくれることでしょう。(APLA事務局・寺田)

〔注〕B M活性水:微生物バクテリアとミネラルの働きをうまく利用し、土と水が生成される生態系のシステムを人工的に再現するB M W技術により作られる活性水。